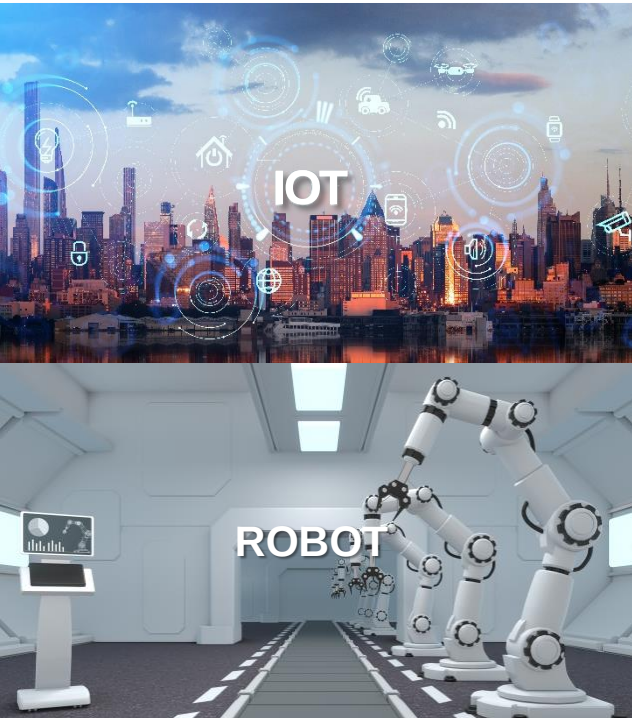


RIVER

2023年3月期

決算説明会



Connecting to the Future

時代が求めるデバイスをお届けます



2023年6月8日

リバーエレクトック株式会社

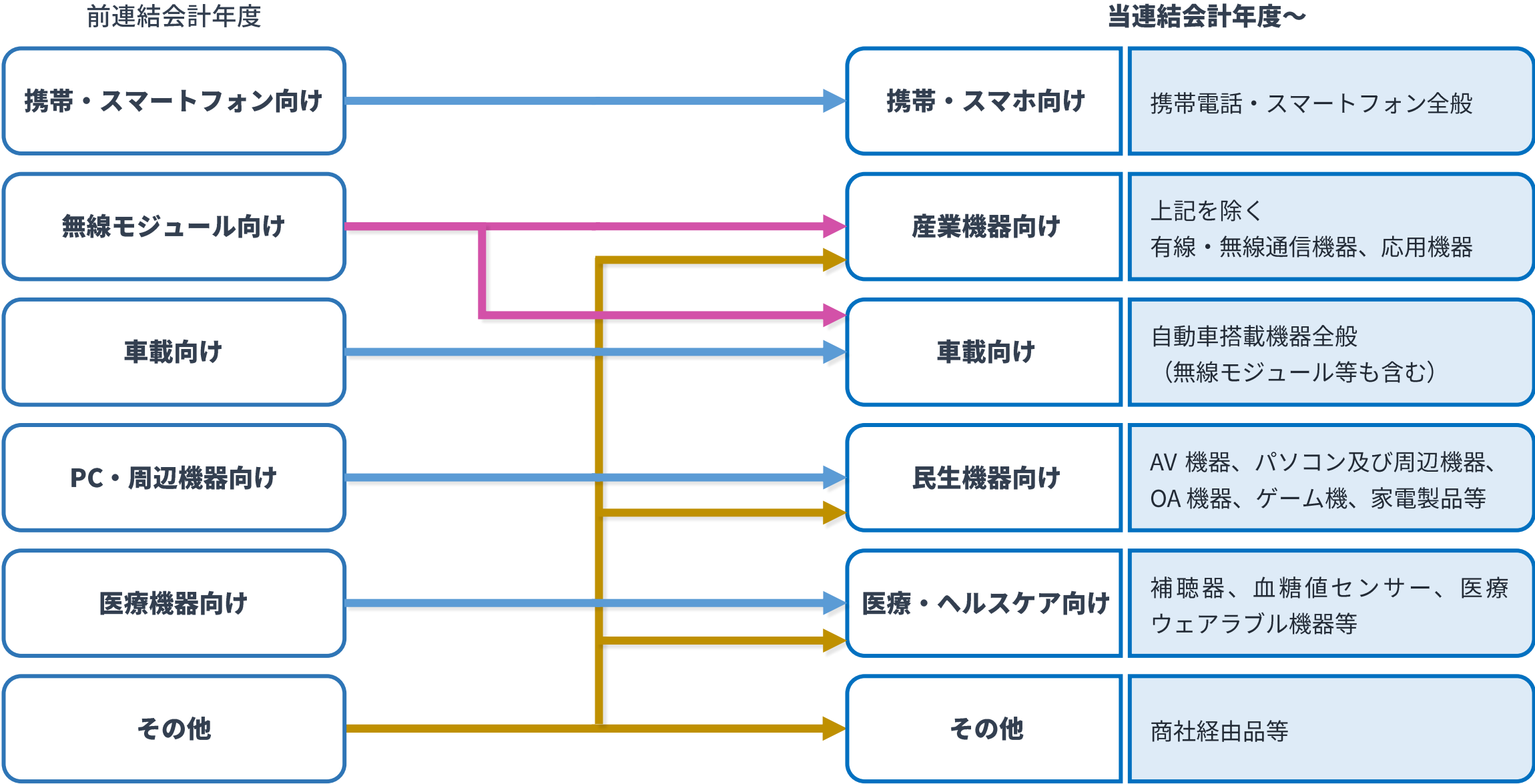
(東証スタンダード 証券コード6666)

アジェンダ

①

2023年 3 月期 決算概要

執行役員総務本部長 天野 伸幸



(百万円)	22/3期 (前年同期)	23/3期 (当期累計)	増減金額・率 (前期比)	23/3期_3Q (前四半期)	23/3期_4Q (当四半期)	増減金額・率 (前四半期比)
売上高	7,416	6,855	- 560 - 7.6%	1,764	1,058	- 705 - 40.0%
営業利益	1,244	1,125	- 119 - 9.6%	346	12	- 333 - 96.3%
営業利益率	16.8%	16.4%	- 0.4pt	19.6%	1.2%	- 18.4pt
経常利益	1,249	1,203	- 45 - 3.6%	344	3	- 340 - 99.0%
親会社株主に帰属する 当期 (四半期) 純利益	1,111	893	- 217 - 19.5%	55	110	+54 +96.9%
EPS	130.94円	103.59円	- 27.35円	6.48円	12.76円	
為替レート (USD/JPY)	115.02円	132.70円		144.81円	132.70円	

対前期比で減収減益

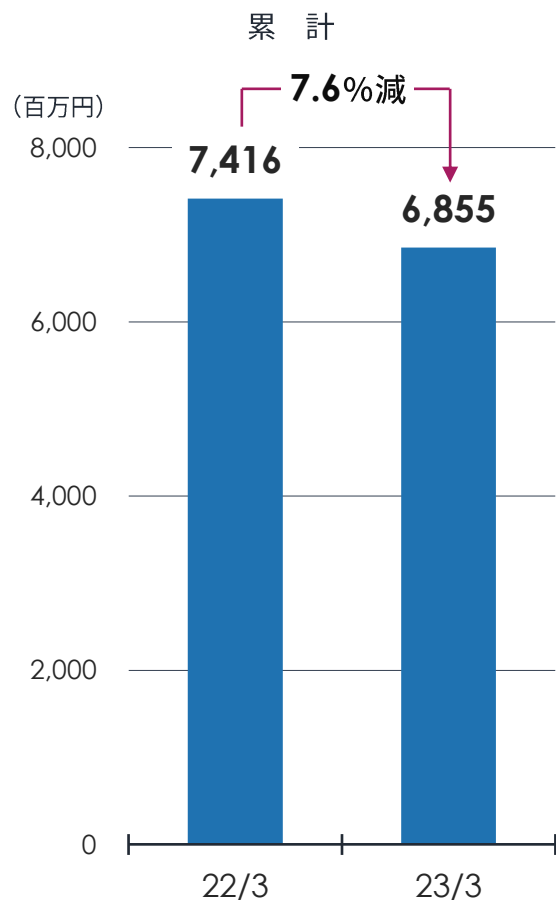
- 👉 売上高

ハイエンドスマートフォンや医療・ヘルスケア向けは前期を上回ったものの、ミドルレンジスマートフォンやIoT機器等の無線モジュール向けが減少。
- 👉 営業利益

円安による為替のプラス効果はあったものの、エネルギーコストの増加や3Q以降、市場の在庫調整の影響に伴う生産高低下により、固定費負担が増大したことなどから減益。

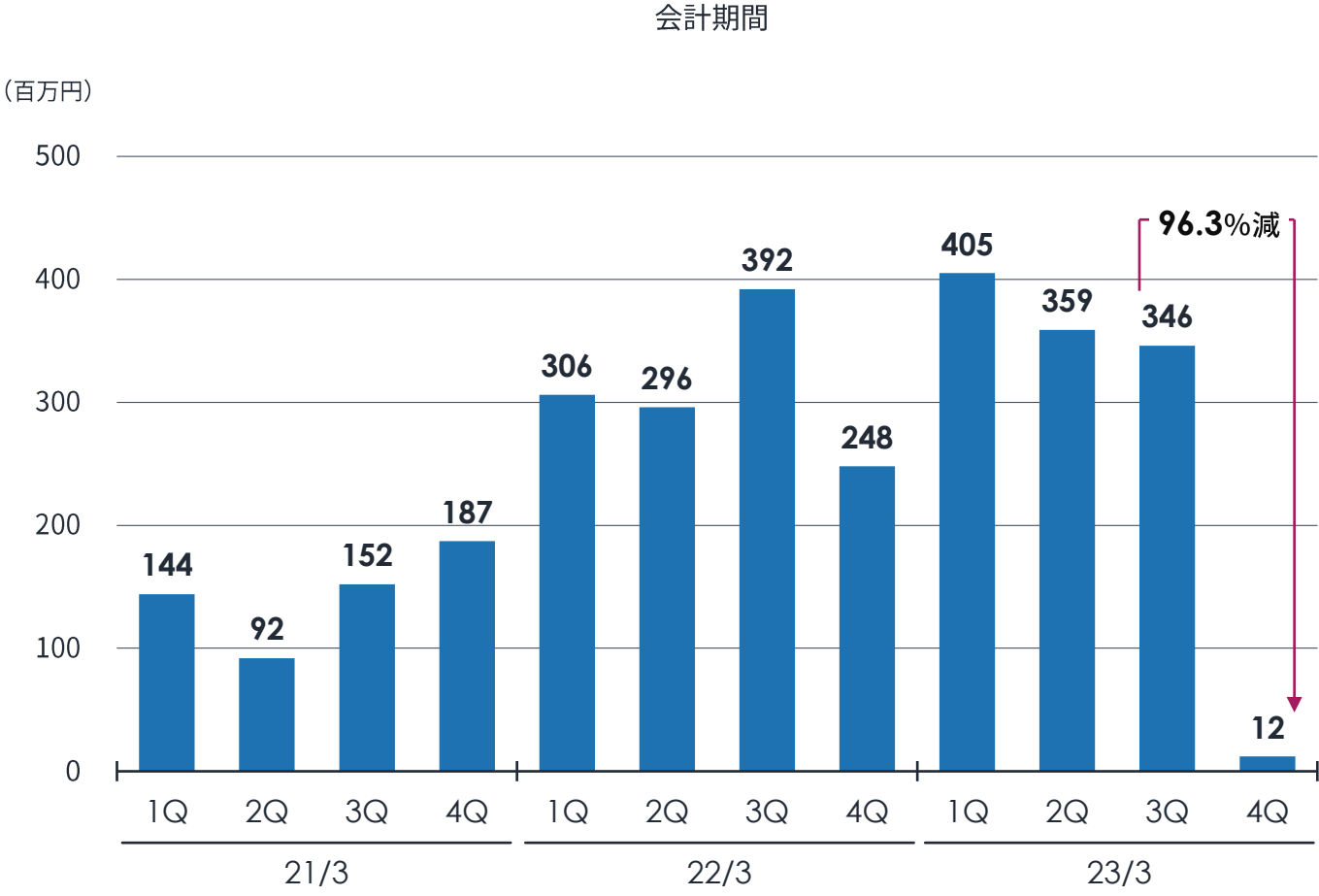
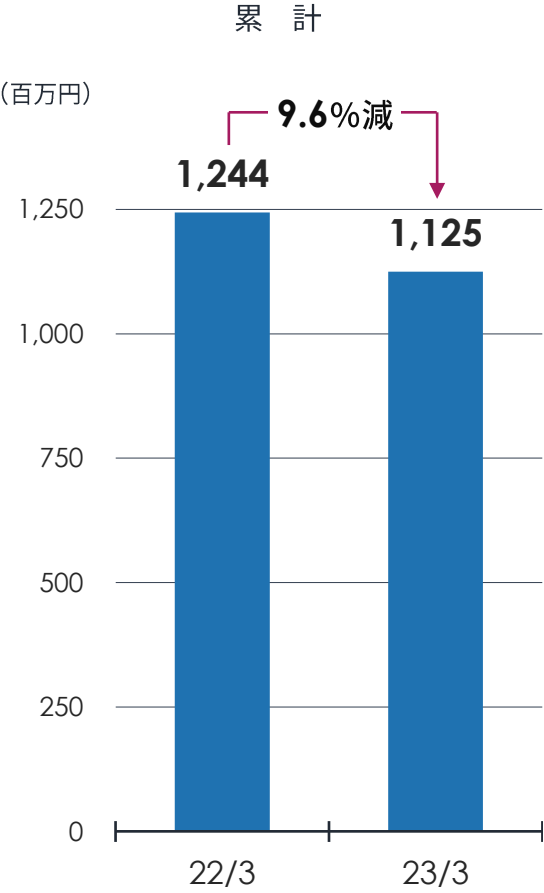
サプライチェーン混乱や在庫調整の影響により前期比減収。

👉 3 Q以降、市場の電子部品在庫の調整が継続。



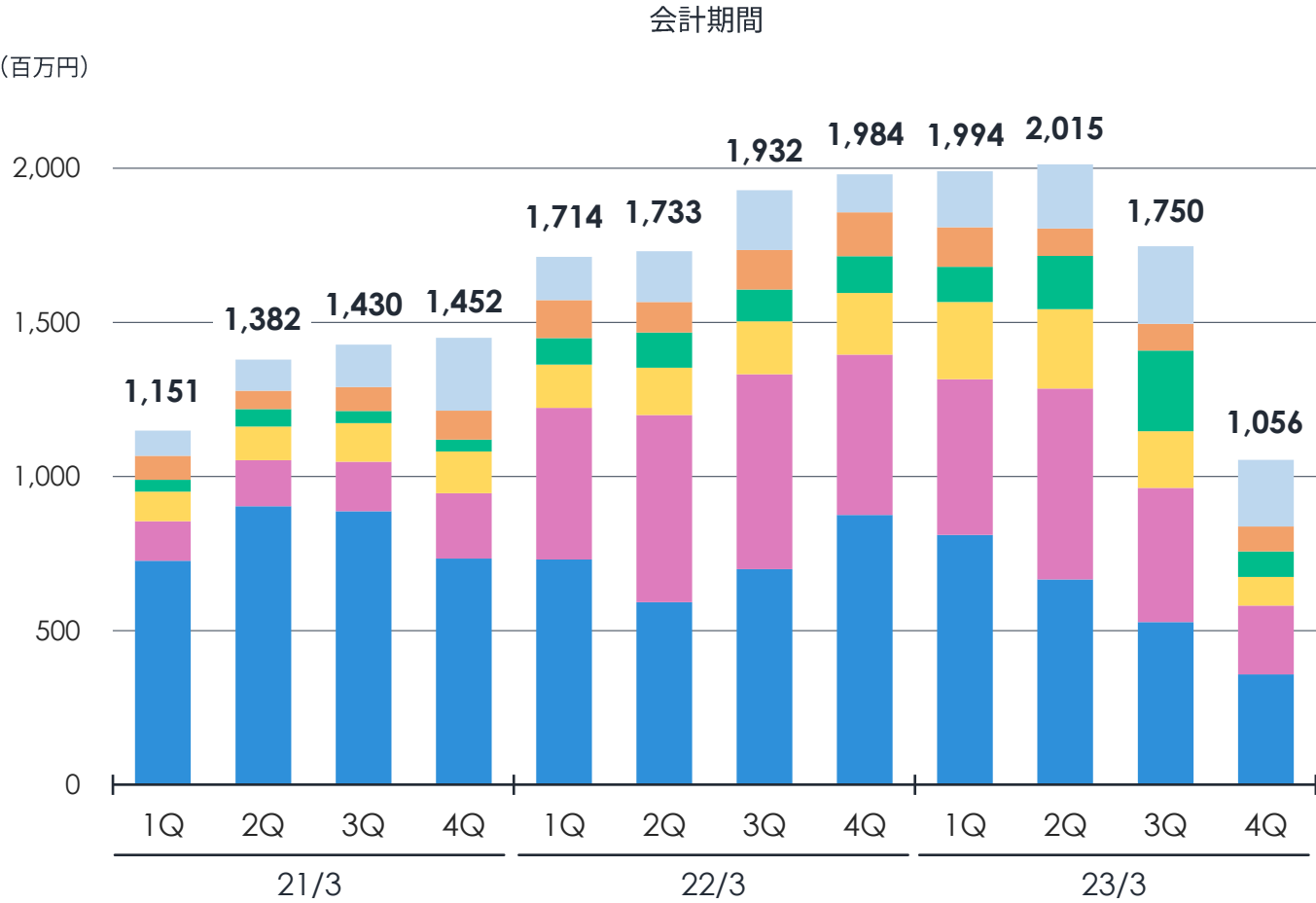
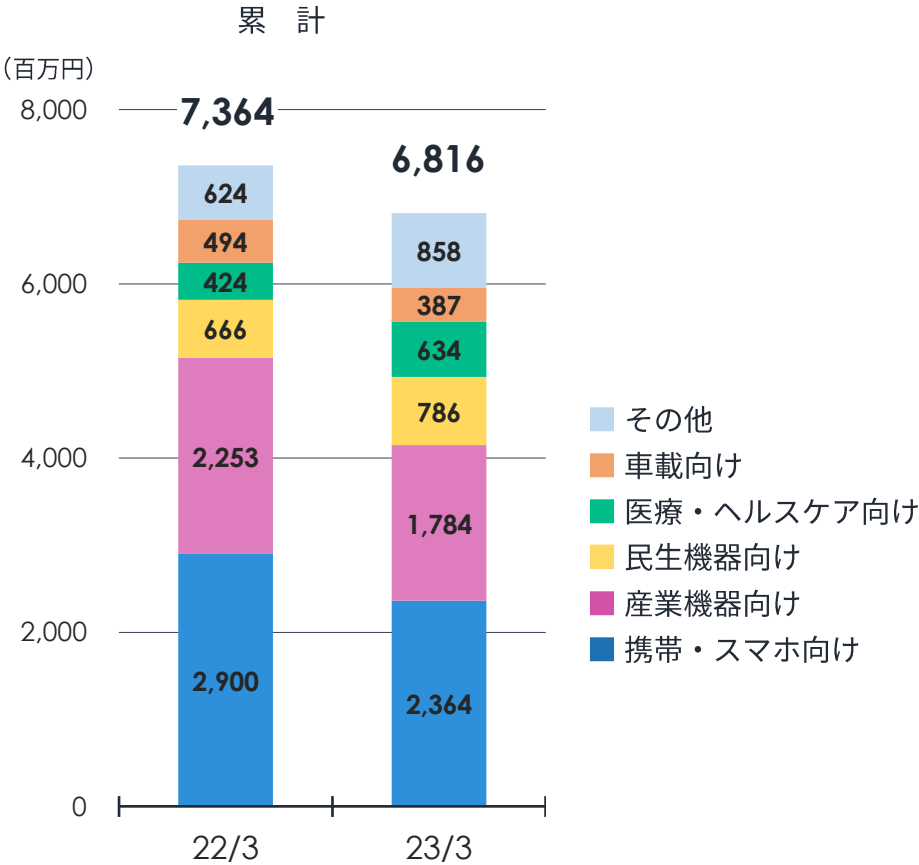
エネルギーコストの上昇や固定費の負担率が増加し、前期比減益。

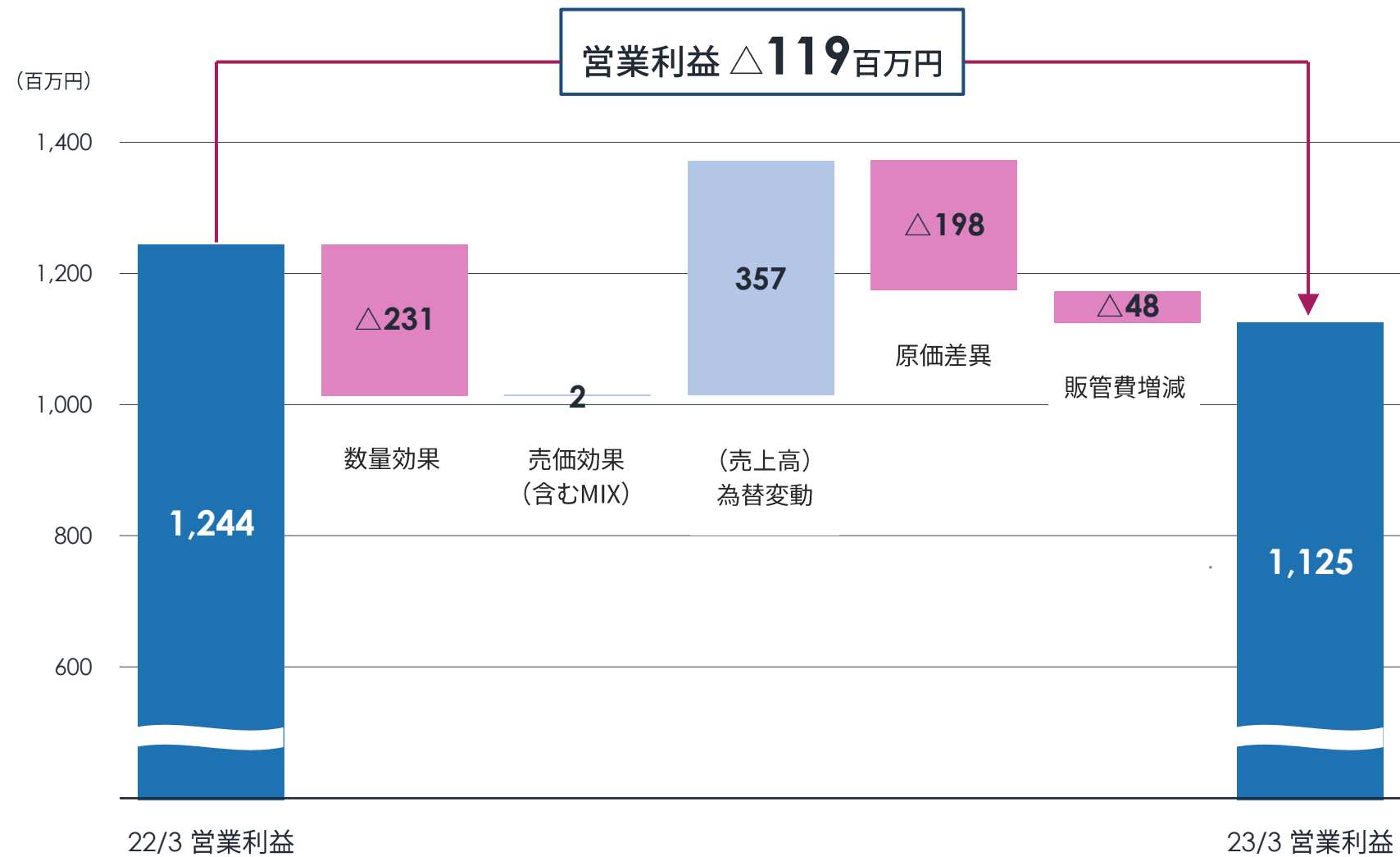
👉 市場の在庫調整の影響に伴う生産高低下により、単位当たりの固定費負担が増加。

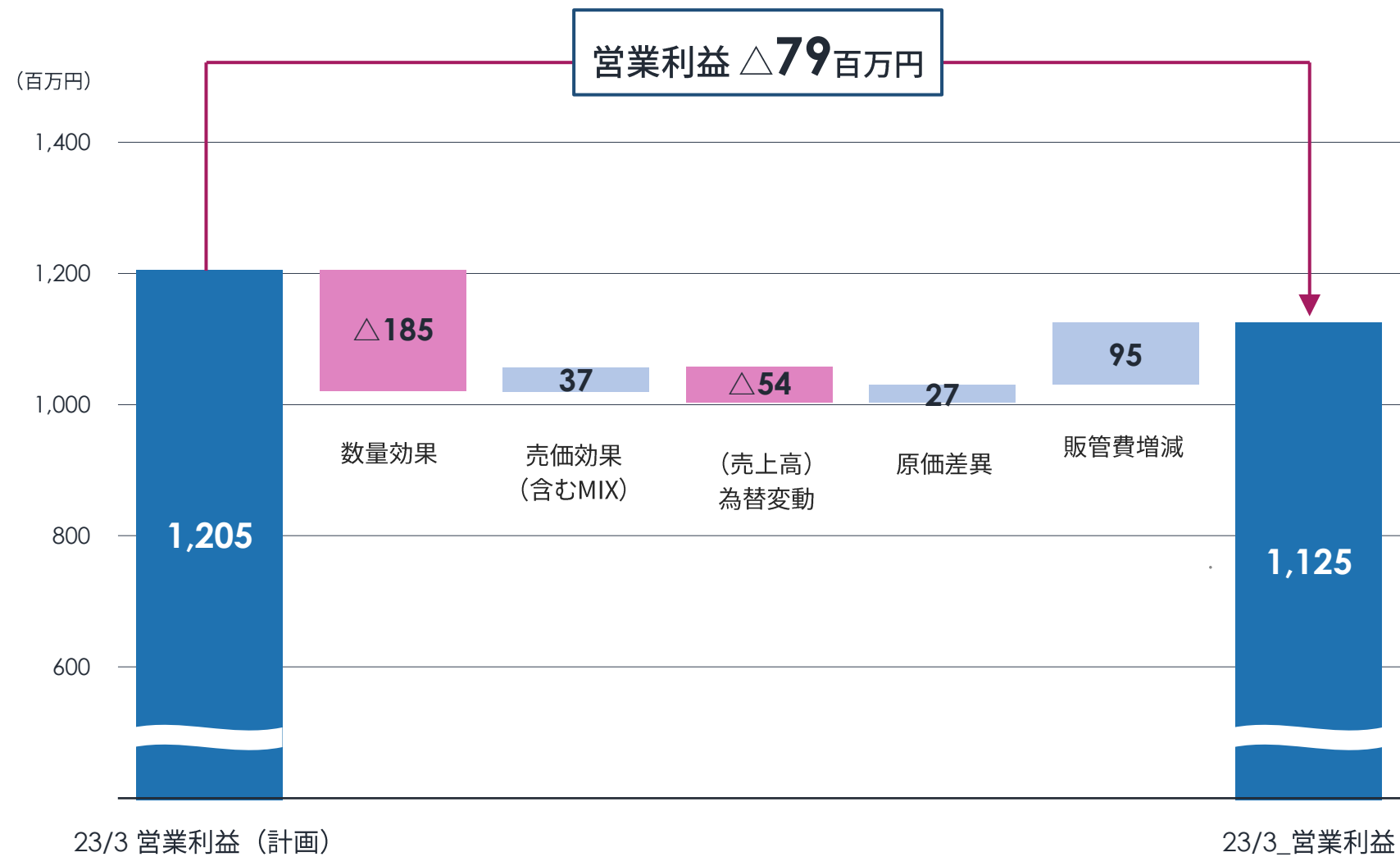


ミドルレンジスマートフォン、中国向けIoT機器向けが減少

- 👉 医療ヘルスケアやハイエンドスマートフォン向けは増収。
- 👉 産業機器向けはIoT機器向け（無線）が在庫調整の影響により伸び悩み。

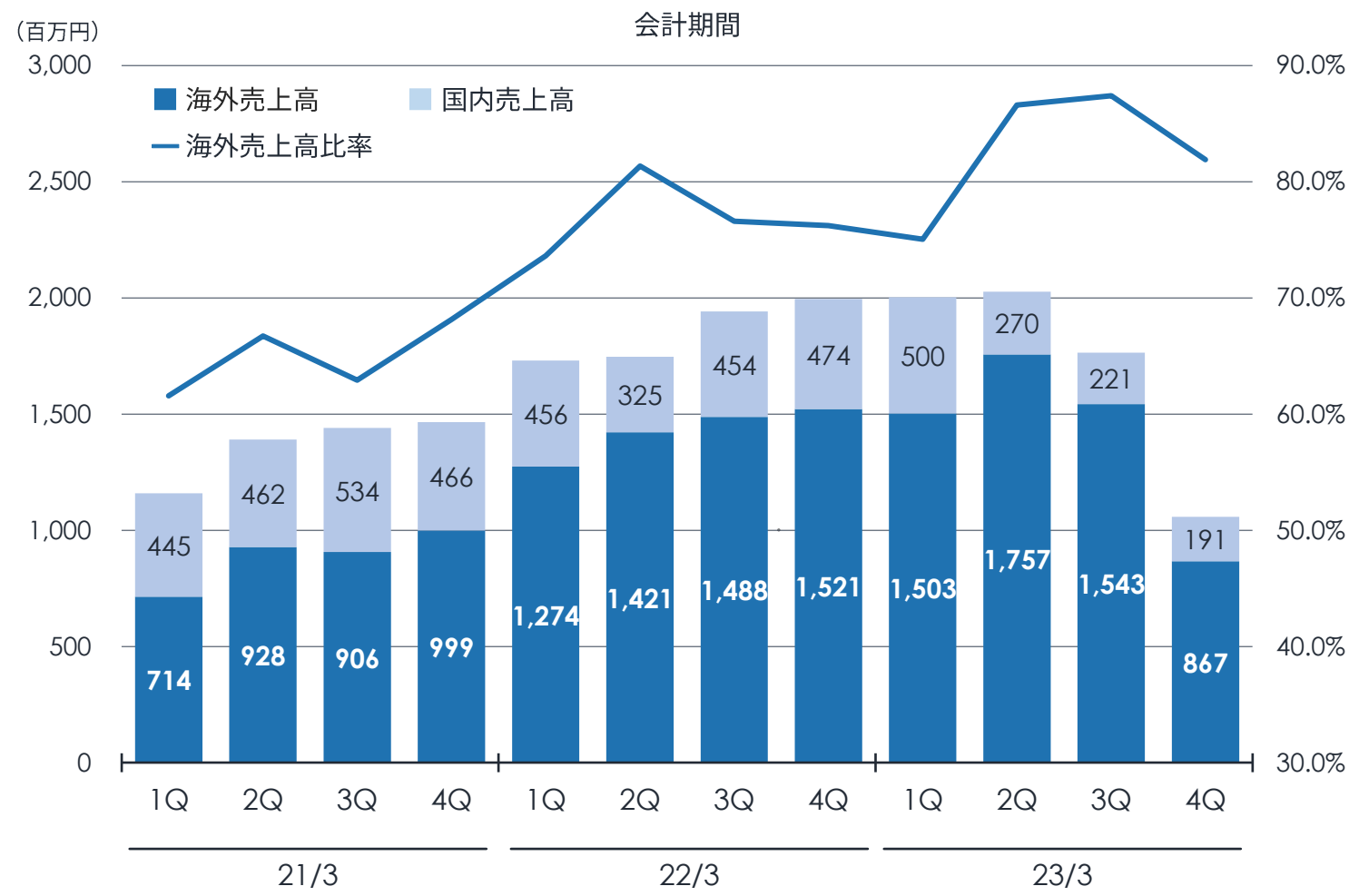
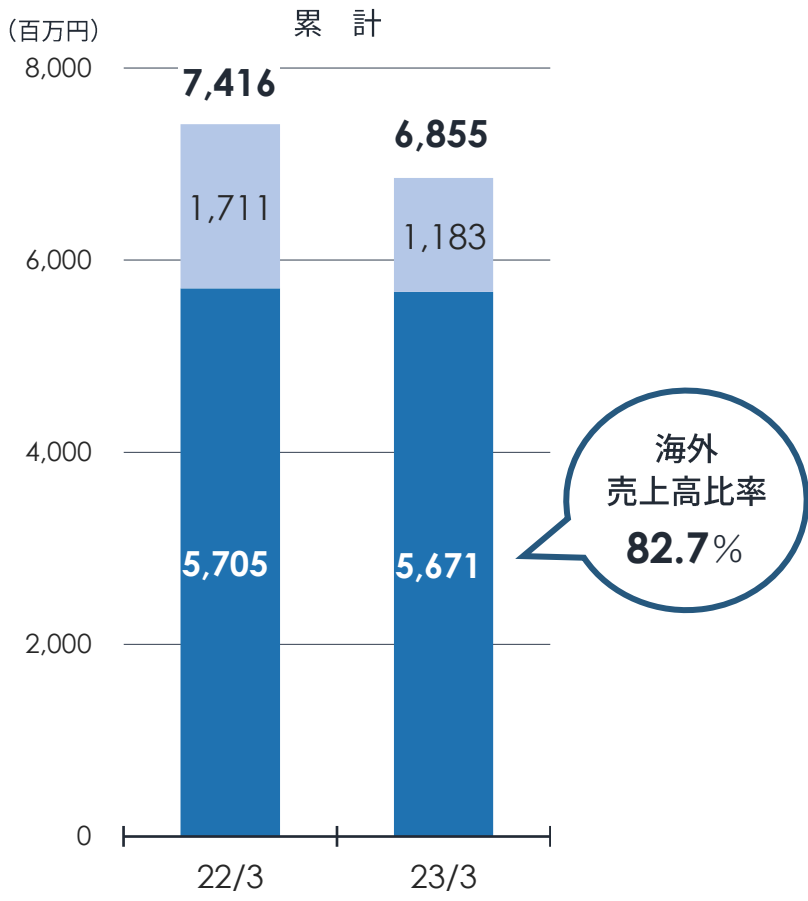






海外売上高は、前期比44百万円の減収。

👉 台湾及び北米向けは増加したものの、中国向けは大きく減少。

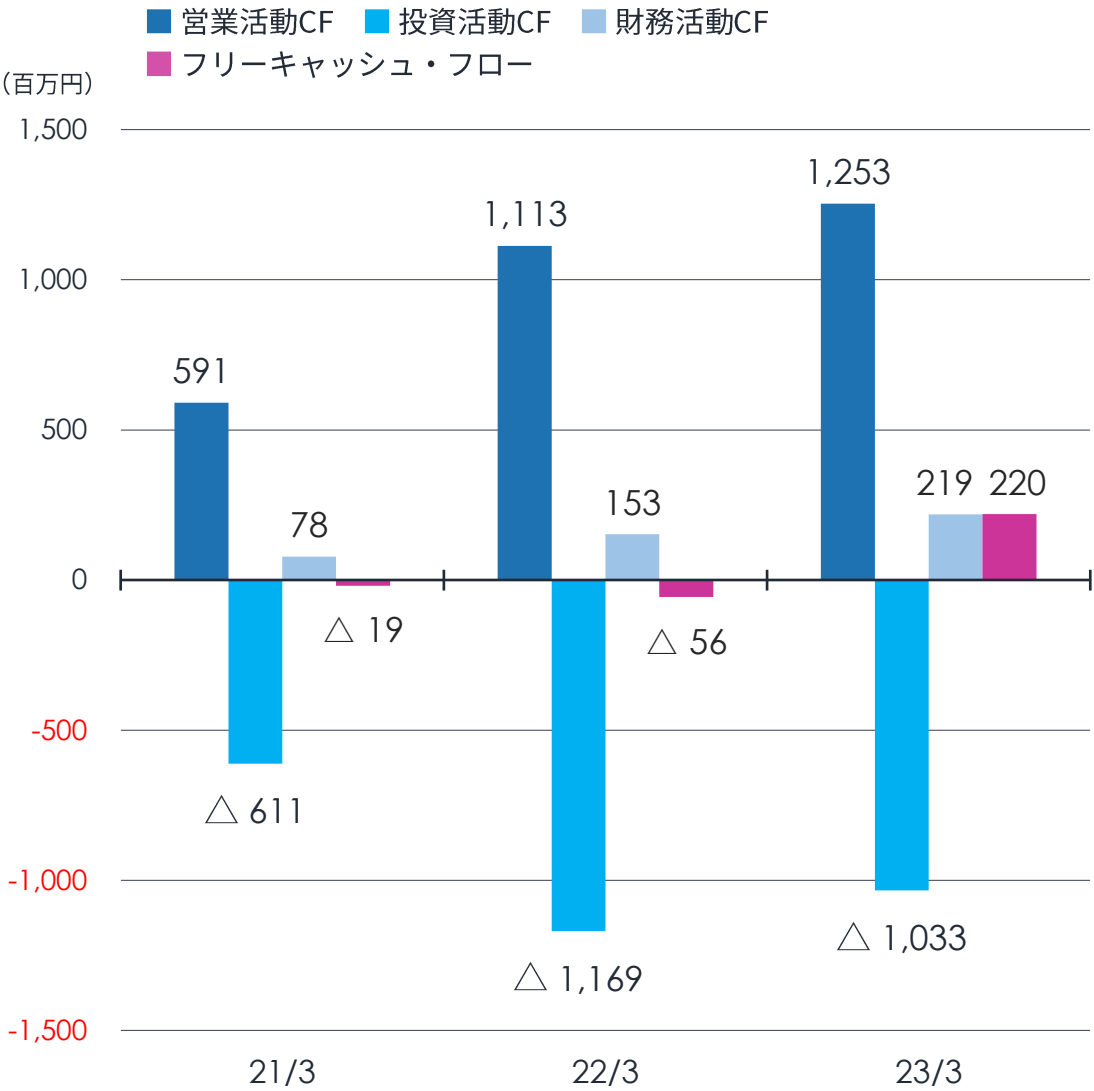


資産の部

(百万円)	22/3 期	23/3 期	対前期末 増減
流動資産	5,326	6,029	+702
現金及び預金	1,931	2,528	+596
受取手形及び売掛金	1,665	1,075	△590
棚卸資産	1,283	1,960	+676
その他	445	465	+19
固定資産	3,815	4,096	+280
有形固定資産	3,319	3,770	+450
機械装置及び運搬具	1,914	2,001	+87
建設仮勘定	369	597	+228
その他	1,036	1,170	+134
無形固定資産	15	14	△1
投資その他の資産	480	311	△168
資産合計	9,142	10,125	+983

負債及び純資産の部

(百万円)	22/3 期	23/3 期	対前期末 増減
流動負債	3,081	2,839	△242
支払手形及び買掛金	388	229	△158
借入金	1,662	1,702	+40
設備関係支払手形	283	290	+7
その他	747	616	△131
固定負債	2,155	2,481	+325
借入金	1,662	1,972	+309
その他	492	508	+16
負債合計	5,236	5,320	+83
資本金及び資本剰余金	2,325	2,325	—
利益剰余金	1,630	2,412	+781
その他	△50	67	+117
純資産合計	3,905	4,805	+899
負債純資産合計	9,142	10,125	+983
自己資本比率	42.7%	47.5%	+4.7pt
D/E レシオ	0.84	0.78	



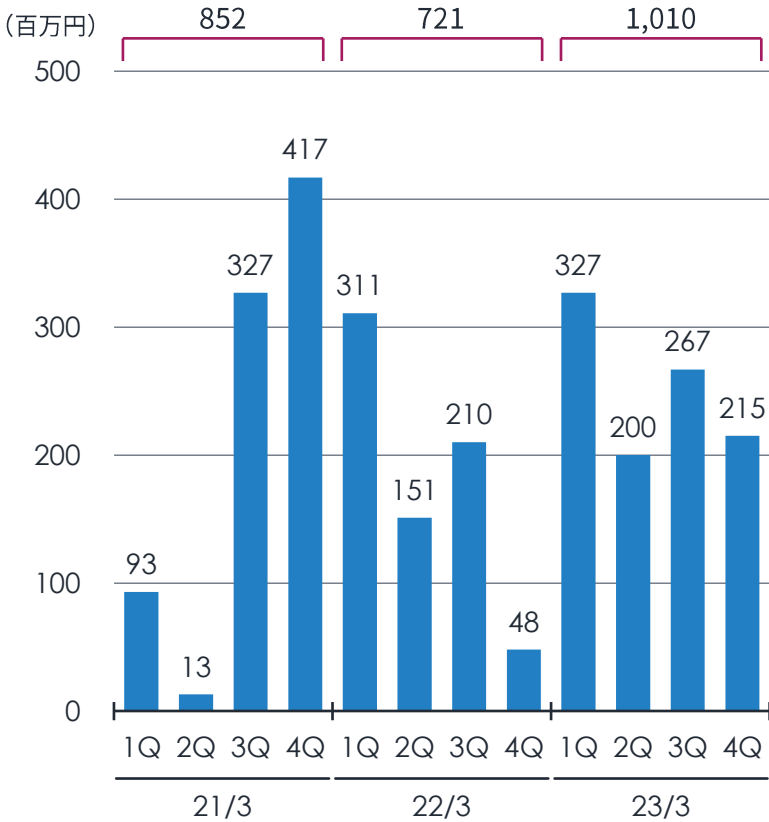
(百万円)	22/3 期	23/3 期	対前期末 増減
営業活動によるCF	1,113	1,253	+140
投資活動によるCF	△1,169	△1,033	+136
財務活動によるCF	153	219	+65
現金及び同等物による換算差額	74	78	+4
現金及び同等物残高	1,307	1,826	+518
フリーキャッシュ・フロー	△56	220	+277
税金等調整前純利益	1,245	1,193	△52
減価償却費	583	574	△8
有形固定資産の取得	△1,129	△947	+181

KoTカットデバイス向けを中心に開発費が増加

👉 設備投資は主に生産増強を目的とした投資。

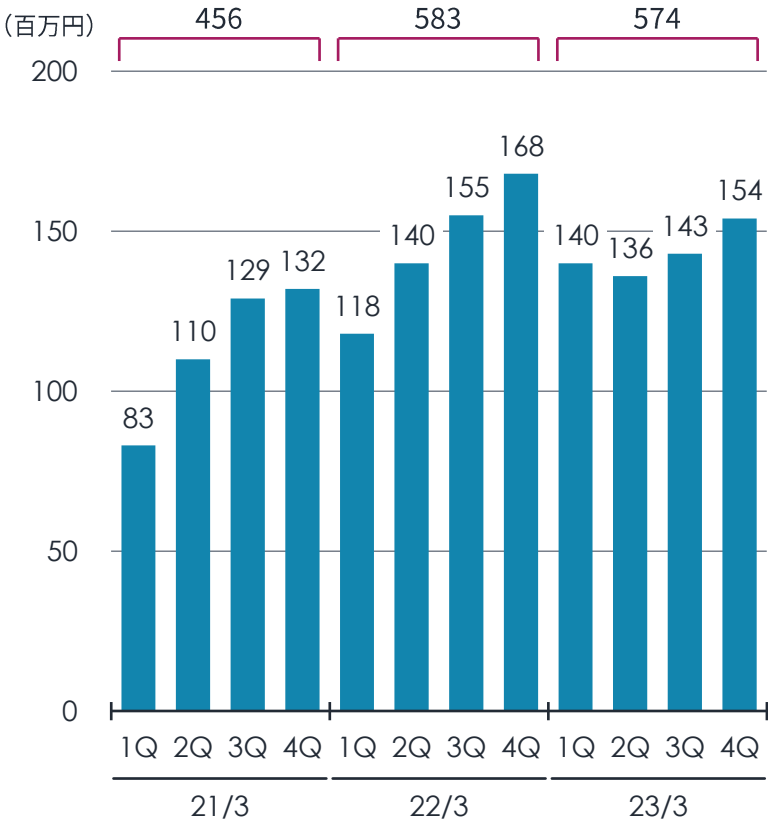
設備投資

23/3 期	24/3 期	増減率	増減率
721	1,010	+288	40.0%



減価償却費

23/3 期	24/3 期	増減率	増減率
583	574	△8	△1.5%



研究開発費

23/3 期	24/3 期	増減率	増減率
207	288	+80	38.9%



アジェンダ
②

2024年3月期 通期業績見通し

代表取締役社長 萩原 義久

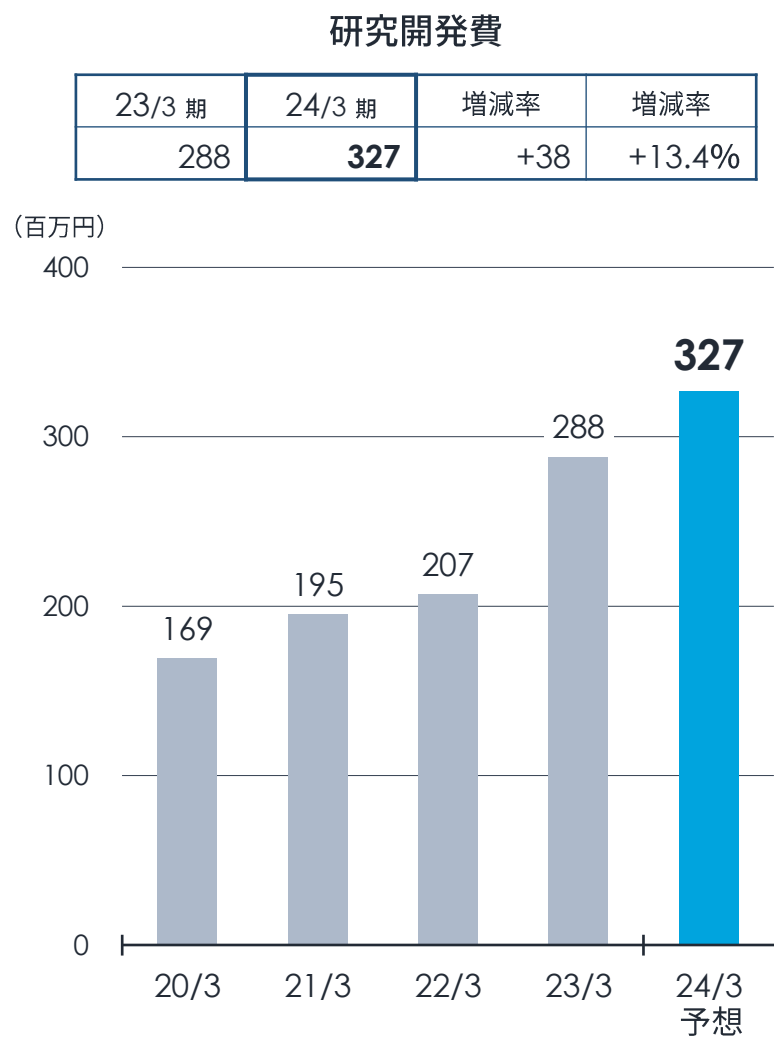
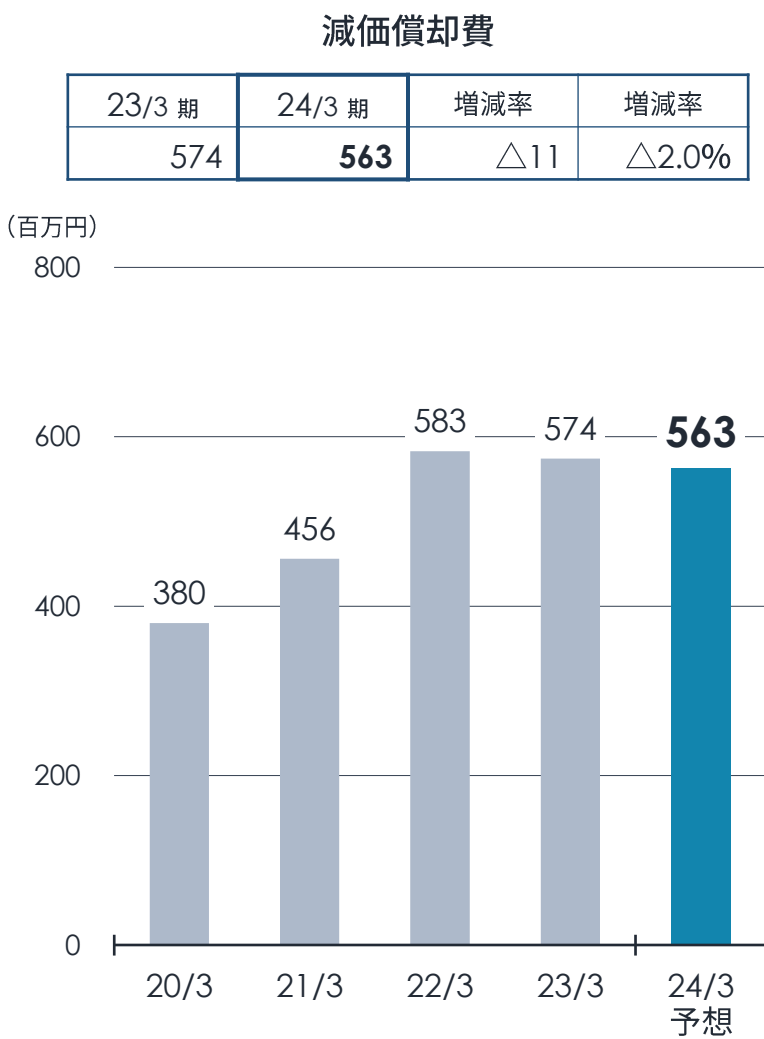
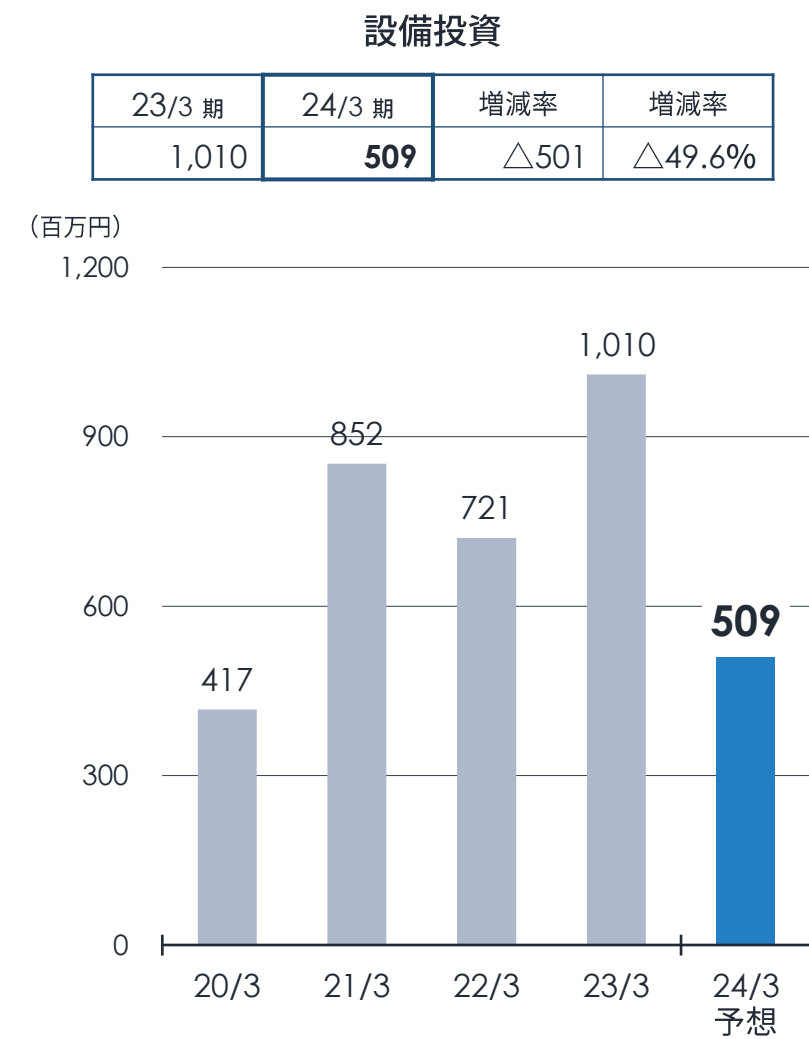
(百万円)	23/3期 通期実績	24/3期 通期予想 (2023/05/12)	増減金額・率 (前期比)	
			増減	増減率
売上高	6,855	6,297	△558	△8.2%
営業利益	1,125	345	△779	△69.3%
営業利益率	16.4%	5.5%	△10.9pt	—
経常利益	1,203	300	△902	△75.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	893	359	△534	△59.7%
EPS	103.59円	41.70円	△61.89円	—
為替	132.70円	130.00円	2.70円円高	—

2024年 3 月期 通期業績見通し前提

- ☞ 全体的な需要は 2 Q以降、徐々に立ち上げるが本格的な回復は 4 Q以降
- ☞ スマートフォン
 - ・ハイエンドモデルは好調に推移
 - ・ミドルレンジモデルはゆっくりとした回復
- ☞ KoTカットが売上高に与える影響は大きい
- ☞ 想定レート (USD/JPY) は130円

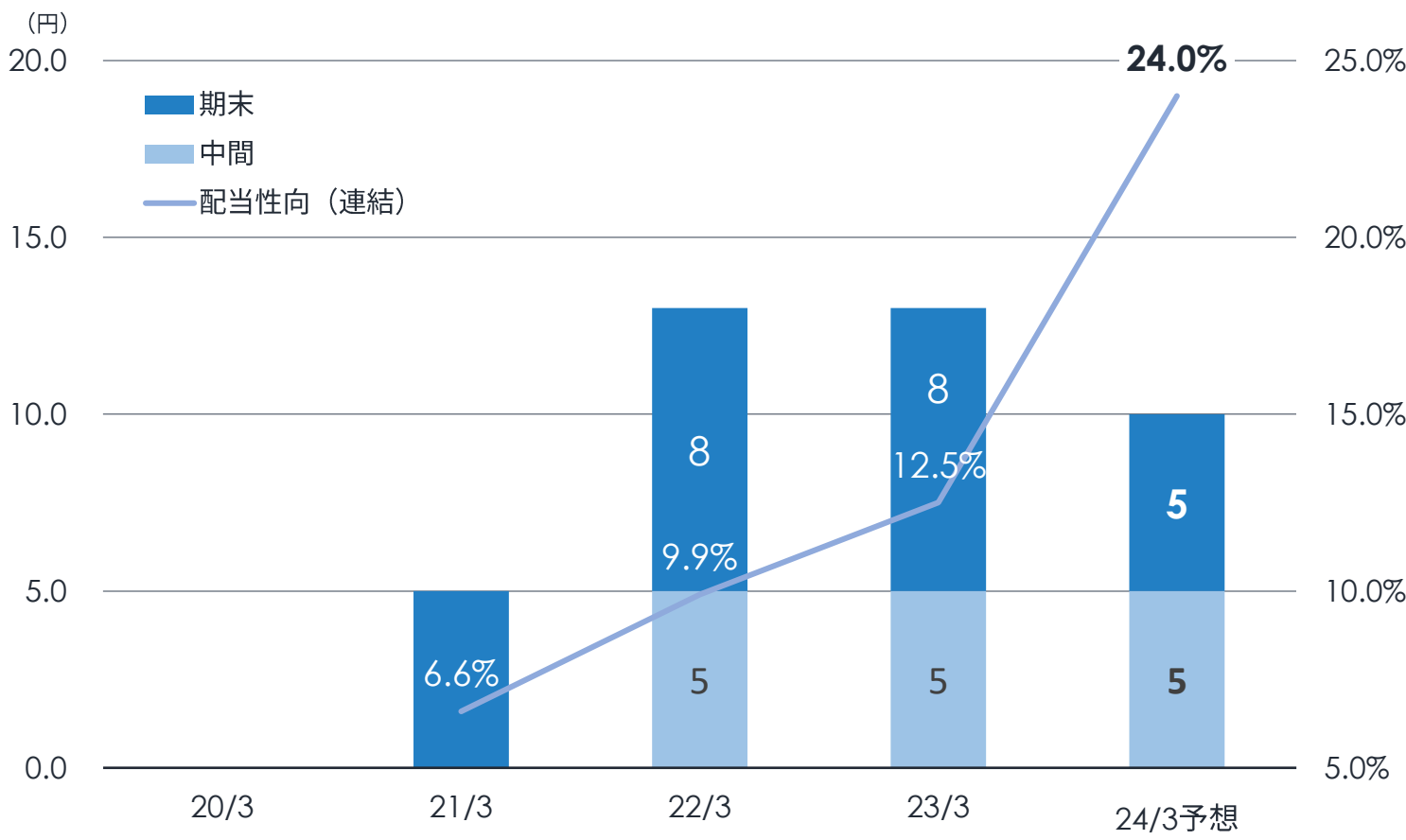
中長期的なトレンドに沿った投資を実行していく。

👉 中長期的な流れに変化がないことから継続投資。



適切な資源配分で持続的な成長を目指す

👉 年間10円（中間5円、期末5円）。



株主還元に関する基本方針

長期安定的な企業価値向上によって、株主への安定的な配当を継続的に行う



連結業績及び配当性向等を総合的に勘案した利益還元
配当性向は連結当期純利益の20%を目安

経営の重要課題

成長力強化を目的とする研究開発・生産設備投資や健全な財務体制を維持するため内部留保の充実

アジェンダ

③

今後の取り組みについて

対処すべき重点課題

小型音叉型水晶振動子の更なる販売拡大

成長市場への販売拡大

主力市場：スマートフォン市場、IoT通信モジュール市場

注力市場：モビリティ市場、医療・ヘルスケア市場

「KoTカット」水晶デバイスのタイムリーな市場投入

顧客エンゲージメントの向上

事業及び製品ポートフォリオの最適化

2023/3期の振り返り

- 👉 1610サイズの音叉型水晶振動子の生産能力増強
- 👉 民生品用途の需要低迷により減収

- 👉 主力市場：民生品用途の需要低迷により減収
- 👉 注力市場：医療・ヘルスケア向けは前期比+50%

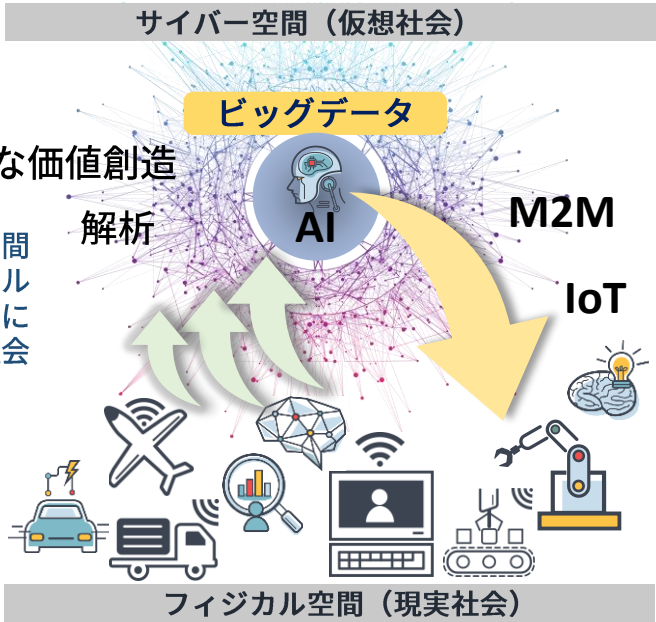
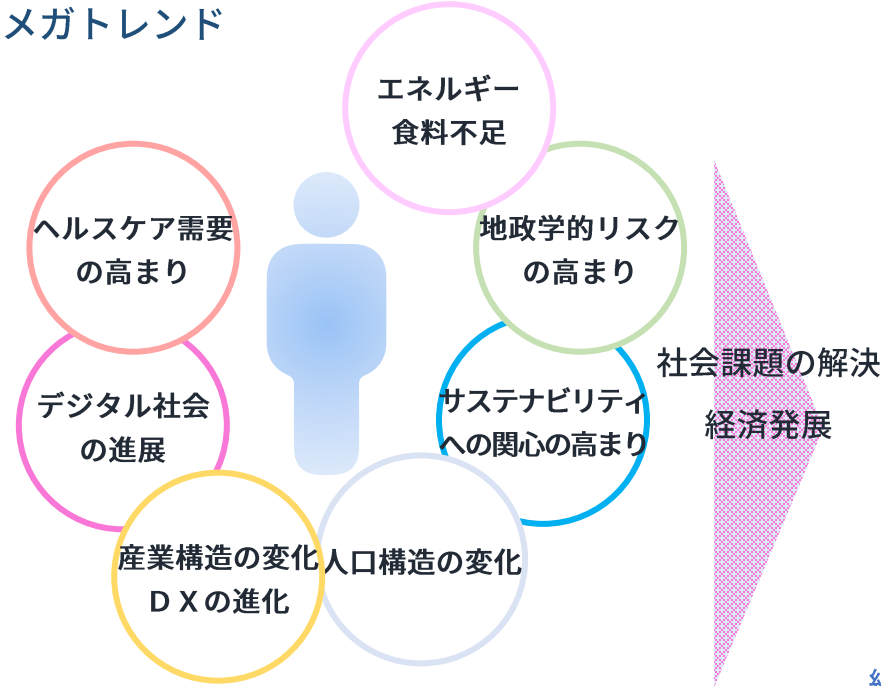
- 👉 本格生産に向けたクリーンルームの増設稼働
- 👉 お問い合わせとサンプル提供の増加
(対応周波数の拡張)

- 👉 工数・仕損じ率改善活動の推進（無・減・代活動）
- 👉 デジタルマーケティングの推進

- 👉 事業・製品ポートフォリオの見直し・推進

新たな社会
“Society 5.0” “創造社会”の実現

メガトレンド



経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会

AIにより、必要な情報が必要な時に提供される社会

AI応用の自律進化型セキュリティ

ロボットや自動走行車などの技術で、人の可能性が広がる社会

知覚・制御を可能とする人間拡張技術

IoTで全ての人とモノがつながり、新たな価値が生まれる社会

情報入出力用デバイスや高効率のネットワーク技術

イノベーションにより様々なニーズに対応できる社会

次世代製造システムや計測技術

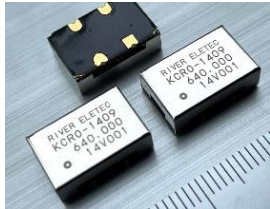
様々な場面で、さらに多くの人とモノが繋がる社会において、無線通信技術（LPWA・次世代通信規格）の拡大とデバイスの増大が予測されている



市場の要求
省電力化や低ジッタに特化した
水晶デバイス



音叉型
水晶振動子



KoTカット
水晶デバイス

長期経営ビジョン 『革新的技術を用いた最適価値の電子デバイスを世界に発信し、人々の暮らしと生活環境の向上に貢献する』

R 2024 基本戦略

顧客の満足と信頼の獲得 ● 顧客満足度の向上 ● 品質で信頼されるモノづくりの追求	➡ 顧客エンゲージメントの向上を図り、顧客とともに企業を成長させる ➡ 顧客の安全と環境に配慮し、創造的なモノづくりを通して、顧客に信頼される高品質な製品・サービスを提供する
独創的発想による価値の創造 ● 独自技術による持続可能な価値の創造	➡ 独自技術を駆使し、社会の持続的発展に貢献する価値を創造する
持続可能な経営基盤の確立・強化 ● 製品ポートフォリオの最適化 ● 経営資本の最適配分 ● CSR・サステナビリティ経営の推進	➡ 2024年度 新製品化率 2 %以上 ➡ 資本コストを意識した経営資源配分の最適化 ➡ 持続可能な成長実現に向けたCSR・サステナビリティの取り組みを推進し、社会的価値を追求する

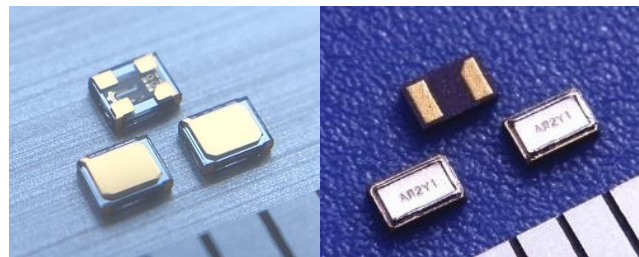
音叉型水晶振動子（kHz帯）

1610サイズにおいて圧倒的シェアNo.1の獲得・維持

注力市場：IoT通信モジュール / 米国・欧州

- ☞ 超スマート社会の実現に向けて
成長が期待されるIoT（LPWA）市場に注力
- ☞ デジタルマーケティングによるブランド力の強化
及び潜在的な需要の掘り起こし
- ☞ 海外販売網の拡充・強化

中長期を見据えた投資方針に変更なし



A T 水晶製品（MHz帯）

ICメーカーのリファレンス登録活動の強化

注力市場：医療・ヘルスケア、車載関連 / 米国・欧州

- ☞ 補聴器等、小型化の要求が強い市場に対し、高い信頼性で
対応していく
- ☞ 市場要求の高い周波数への対応力強化
- ☞ 成長市場である車載関連への販売拡大を模索

独自技術による超小型製品の開発

- ☞ 独自技術である金属間直接接合封止（MDS）工法、
フォトリソ加工技術を駆使した次世代製品を開発する

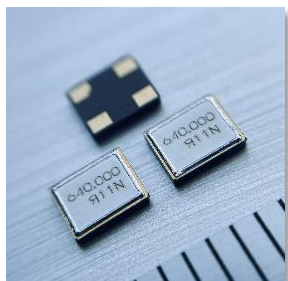


競争優位ある領域で収益力を強化し、持続的な成長を目指す

KoTカット水晶製品（高周波MHz帯）

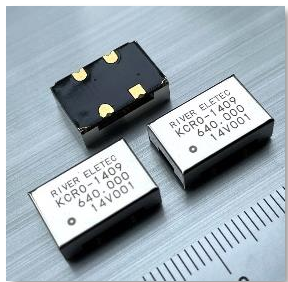
量産技術及び量産体制の早期確立

- 👉 様々な周波数の開発依頼に対応
- 👉 海外メーカーを中心に計測機器やレーダー用途需要
- 👉 本社にクリーンルーム増設



KoTカットOPAW水晶振動子
KCR-04

公称周波数：500MHz～800MHz



KoTカットOPAW水晶発振器
KCRO-1409

公称周波数：500MHz～1GHz
RMS位相ジッタ：5フェムト秒 (typ. / SPXO)
7フェムト秒 (typ. / VCXO)

『KoT』 カット日本の特許登録が完了

本日開示「弾性波素子（KoTカット）に関する特許登録のお知らせ」

世界の主要国で特許の登録が進む



各国の特許登録

台湾：弾性波元件 (I 747636)
米国：ACOUSTIC WAVE DEVICE (US11,258,424)
英国：Acoustic Wave Device (GB2598165)
日本：弾性波素子（特許第7249055号）

今後、大きく成長することが期待される高周波デバイスで新たな収益の柱を創出する

世界中の課題を解決していくKoTカット水晶デバイス

KoTカットOPAW水晶発振器「KCRO-1409」

RMS位相ジッタが従来の低ジッタ水晶発振器より約一桁低い値を実現
500MHz超の高周波、低ノイズの対応製品として、新しい市場開拓が期待

**KCR-04、KCRO-1409に続く
次なるKoTカットデバイス開発が進行中**



次世代通信による自動運転や航空宇宙開発での支援が期待

次世代水晶製品に対応するクリーンルーム稼働

本社工場内に増設

延べ床面積は171.4m²（既存の1.5倍の広さ）

「KCRO-1409」の生産、サンプル出荷を強化

「フォトリソ技術」を利用した水晶微細加工によるKoTカット水晶の研究開発

2023年 生産開始 サンプル出荷を強化

（海外メーカーを中心に計測機器やレーダー用途でのサンプル依頼が増加）

対応周波数の拡張を進め、量産案件に繋げていく



持続可能な経営基盤の確立・強化

資本コストを意識した経営資本の最適化

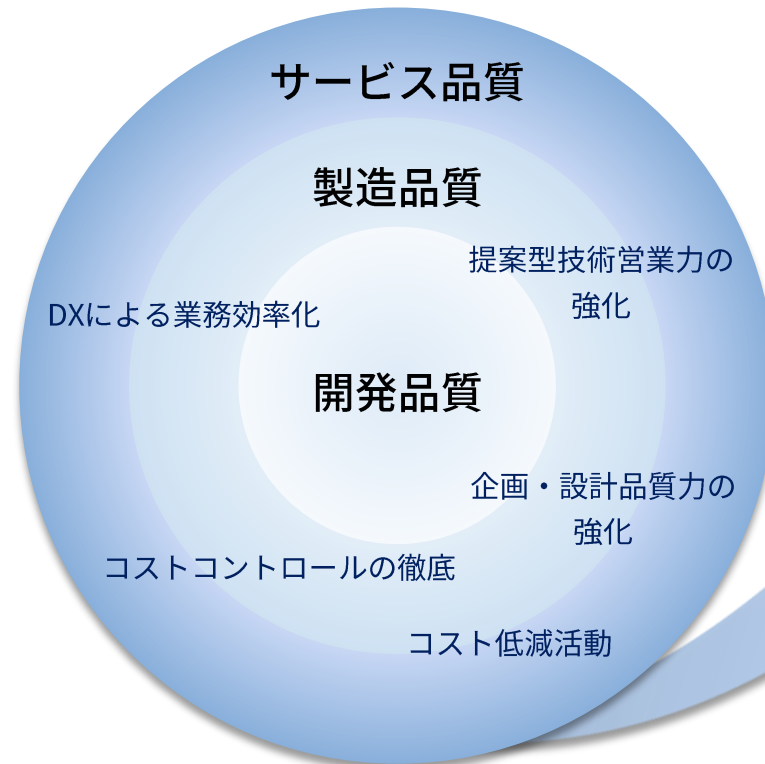
- ☞ 事業・製品ポートフォリオの見直し・推進
- ☞ 株主還元策の検討

CSR・サステナビリティの推進

- ☞ 「環境」「人権の尊重」「ICT社会に即した製品の提供」など、10項目の重要課題を特定し、グループ全体に方針展開

社会的課題に取り組むことにより、従業員の意識や行動を変えることで、従業員エンゲージメントの向上を促進させる

3つの品質の向上
(開発・製造・サービス)



顧客エンゲージメントの向上を図り、顧客とともに企業を成長させる

顧客の安全と環境に配慮し、創造的なモノづくりを通して、顧客に信頼される高品質な製品・サービスを提供する

企業と全従業員が一体となって顧客・社会に接し、顧客・社会とともに企業を成長させる



Connecting to the Future

リバーエレクトック株式会社

本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。